

学内六報

2016.6.24

no.1483



photo : Hiroyuki Shima



三四郎池で昔
できたスポーツは？
p4を見てね



WGが今後の在り方を示す報告書を発表
育徳園の現在・過去・未来

今後に向けての「在り方検討WG」が報告書を公表

育徳園の現在・過去・未来

「三四郎池」周辺

WG報告書の要旨

●育徳園の価値

育徳園の価値は、①自然環境、②歴史の重層性、③保健休養の3つの要素が調和的に共存してきた文化的な価値である。加賀藩邸時代に形成された日本庭園が、大学という教育・研究機関に取り込まれ、独特な利用をされてきたことによって、その価値を醸成してきた。

●育徳園のあり方 —管理指針策定に向けた論点—

短期的に実施すべき事項

- 1 園路の安全性の確保のための植生等の管理**
 - ◇歩行者に対して危険性を有すると考えられる樹木の管理方法の検討
 - ◇そのための必要最低限の植生調査
 - ◇できる限り予算を抑え、かつ計画的・効果的な管理を行うための具体的な体制の検討
 - ◇園路自体の危険箇所の手当
- 2 園内の安全性確保のための柔軟な運用**
 - ◇台風（暴風）通過後と積雪後は、安全性が確認されるまでの間、入園を制限（一時的に立ち入り禁止）するなどの柔軟な利用規制
- 3 外来種の駆除および随時可能な植生管理の工夫**
 - ◇シュロやトウネズミモチといった外来種の駆除（動物も含め）
 - ◇現在行われている植栽管理（落ち葉清掃など）の中で随時実施できる工夫の検討
- 4 保護すべき史跡の明確化および最低限必要な調査・保護措置**
 - ◇緊急的に保護すべき史跡に対するミニマムな調査と最低限必要な保護措置
- 5 利用者への案内**
 - ◇利用者の理解を助けるような工夫
 - ◇HPでの情報公開など、すぐに取り組める方法から実施

中長期的に実施すべき事項

- 6 持続的な環境管理システムの構築**
 - ◇中長期的に展開しうる植生・水（質・量）や土壌など、総合的な環境管理システムの検討
 - ◇植生については、特に大木（の倒木）に対する維持管理方針の検討
 - ◇低木も含めた調査・データ整備
 - ◇不適切な植生の防止、またそのための管理部局等との連携
 - ◇できる限り予算を抑え、かつ計画的・効果的な管理を行うための具体的な体制の検討



●報告書の全文はこちらで読めます

http://www.u-tokyo.ac.jp/fac03/b07_02_03_j.html

育徳園の在り方検討WGメンバー

主査	横張 真 教授（工学系研究科）	問い合わせ ：本部施設企画課 （内線22252）
	邑田 仁 教授（理学系研究科）	
	木下直之 教授（人文社会系研究科）	
	尾崎 信 助教（工学系研究科）	
	土屋一彬 助教（農学生命科学研究科）	
	原 祐一 助手（埋蔵文化財調査室）	
事務局	本部施設企画課 寅ヶ口課長、戸塚係長、藤塚主任	

7 園路の再デザイン

- ◇園路を、自然環境や歴史の重層性と調和するものとして再デザイン
- ◇雨水による土壌浸食などを防ぐ園路デザイン（必要に応じて短期的措置も要検討）
- ◇建築と自然環境が一体的に形成する空間への評価と適切な空間への誘導
- ◇夜間利用のあり方の検討

8 視点場の再デザイン

- ◇園路の再デザインと併せた、戦略的な視点場・眺望景観の再編集
- ◇特に重要な視点場環境を良好なものへと再デザイン

9 眺望景観・史跡の顕在化措置

- ◇重要な史跡の要素について、中長期的に自然環境に負荷をかけない範囲での顕在化措置
- ◇重要な視点場からの眺望景観を維持するための植栽剪定

10 建築物・工作物と自然環境が一体となった空間への評価

- ◇園内もしくは隣接する建築物・工作物と自然環境が一体となって形成する空間について正しく評価を行い、適切な空間へと誘導

本郷キャンパスの代表的スポットの一つ、三四郎池。この池を中心とした育徳園と呼ばれる一帯では、重層的な歴史の変遷を刻みながら現在へと至る中で、いくつかの課題が見えてきました。それを受けてキャンパス計画室に発足した検討WG(ワーキンググループ)が、先頃、育徳園の履歴とあり方についての報告書をまとめて公表しました。報告書の要旨と背景を主査の先生に解説してもらおうとともに、そのユニークな魅力を改めて紹介します。

WG主査に聞きました

江戸・明治・大正・昭和のレイヤーが重なる他に類を見ない庭園です

キャンパス計画室には植栽管理部会がありますが、育徳園は対象外でした。どう整備・管理をするかの明確な方針がなかったのです。しかし、諸問題が顕在化する中で議論の機運が高まり、平成26年度にWGが発足、全7回の会議を経てまとめたのが今回の報告書でした。

育徳園には加賀藩上屋敷の核をなす大名庭園という履歴があります。廃藩置県で江戸の大名が皆引き上げ、多くの大名庭園が消える中、加賀前田家の庭園は大学設置の動きに組み込まれて残ります。大学の一部となった後、構内整備のために改変が繰り返され、庭園としての価値はあまり顧みられませんでした。しかし、関東大震災を契機に、一帯の緑が延焼を防止したり、池の水が消火に使えるといった防災面での機能が注目されるようになります。歴史の大事な1ページです。江戸～昭和のレイヤーが重なる点は他に類を見ない魅力です。左図の②の部分ですね。

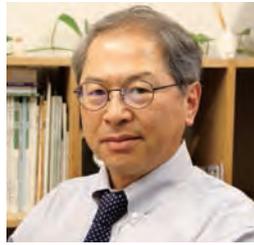
①に挙げたのは自然環境の部分です。界限を俯瞰すると、南東に不忍池、南には皇居がある。東京東部の大規模な緑の一つを形成するのが育徳園です。様々な生物の中継点や居住地として機能していますが、実はシュロのような外来種が増えて本来の生物相を歪めている面もある。看過できない問題です。

③については、これだけの大空間が、教職員、近隣住民、病院の患者さんに対しても貴重な緑を提供していて、保健休養の役割が当然重要です。しかし、大学編入後1世紀超。樹勢の衰えた老木が増え、台風や大雪で枝が落ちる懸念が増している。ケガでもしたら休息どころではありません。これも大きな問題です。

3点に通底するのは教育・研究の場だということです。教育実習に使ったり、周辺の歴

WG主査
工学系研究科教授

横張 真



史を研究する人もいます。私自身、学生時代に池の周りで測量実習を行ないました。起伏があり不定形なので実習に好適なんです。正しく測量して戻ればびたっと原点に合うはずが、一周したら2mもずれていて先生に叱られました。幼少時には、網で魚をとろうとして守衛さんに怒られた経験もありますよ(笑)。

こうした取組みでは、歴史、自然、保健の立場が対立しがちです。自然重視派は伐採を減らそうとし、保健重視派は伐採を増やして歩きやすさを求める。ですが、整理すると方向性はそう違わないとわかりました。元来人が手を入れて成立した場のため、全く人の手を入れないのは自然環境の価値で見てもよくない。一方、大名庭園の履歴を基調としつつも、そこに時代ごとのレイヤーが積み重なったのが現在の育徳園なので、文化財のように凍結保存すべきものでもない、というわけです。

今回の主眼は、基本的な部分の整理でした。どう活かすかは今後の課題です。たとえば、枝を切る際、他の場所なら重機でできますが、園内に重機は入れず、人力頼りでコストがかさむ。大問題ですが、お金をかけないと貴重な資産を次代に伝えられません。大学が覚悟をもたないと報告書だけで終了です。もちろんすぐにできることもあります。いま清掃の一環で枯葉を集めて捨てていますが、実は捨てずに残したほうが林床の生態系を豊かに保てる。過剰分だけ排除するよう変えるのはすぐにできます。報告書のフォローアップをするWGを今後行なう予定です。施設管理の現場の方々にも加わってもらって意思疎通をしながら整備を進めていきたいと思っています。

WG報告書にも活かされた学生時代の取組み

「学部生だった頃、緑地デザイン実習の授業で育徳園が題材となり、模型を作って設計を考えたことがありました。その後、修士課程の頃に130周年記念の学生企画コンテストがあると知り、授業でいっしょだった仲間3人を誘って「三四郎池のランドスケープリノベーション」というテーマで応募したところ、優秀賞を獲得して報告書を冊子にすることができました。実はこの3人は横張研究室所属。その縁もあってお声がけいただき、今回のWGに参加しました。

報告書では主に動植物などの自然環境の面で見えた価値について書きました。学生時代の報告書で調べた資料も大いに活用しましたよ。育徳園は東京都心の中でも特別な空間だと思います。エノキやムクノキといった落葉樹が水辺で大木に育って森を形成している育徳園の姿に、自分の学術的興味が刺激されたという面は、確かにありましたね。

私は2015年春から緑地創成学研究室の助教として研究活動をしています。今後は、育徳園のような森の緑が研究者に及ぼすリフレッシュ効果についても研究してみたいと思っています。教職員の皆さん、仕事の合間の息抜きとして育徳園に行ってみるのもお奨めですよ(農学生命科学研究科助教・土屋一彬)



学生時代に作った成果報告書(2009年3月刊)を手に。



教職員なら知っておきたい 育徳園

「せっかくだから三四郎池に案内してよ」と頼まれること、たまにありますよね。そんなときは豆知識を精一杯披露して客人をもてなすのが淡青色の教職員のつとめ……というわけで、よりすぐりの情報を集めました。より詳しく知りたい人はWG報告書に Go!

命名は前田綱紀公

一帯を整備し、育徳園と命名したのは前田家5代藩主・綱紀公です。1671年には9名の儒者を招いて詩の宴を開催。その際に詠まれた「八景八境の詩文」には、場所、施設、方角、季節、時間、天気、天体、動物、植物の情報が織り込まれており、四季折々の魅力に溢れる育徳園の魅力の痕跡を伝えています。

巨石群にはモデルがあるかも

大名庭園では参勤交代の道中にある名所のイメージを取り入れている例があります。今回のWG報告書では、石段と巨石群1が新潟の景勝地「親不知子不知」を、巨石群2が木曽の景勝地「寝覚ノ床」をモデルとしているのではないかと、興味深い可能性が指摘されています。今後の検証が待たれるところです。

徳川秀忠や家光や綱吉も訪れた

記録によると、2代秀忠（引退後）、3代家光、5代綱吉、11代家斉、12代家慶と、計5人の将軍が訪れています。1868年には明治天皇が行幸の途中で休憩に訪れたことも。

文学部3号館

昔は遊泳やスケートもできた

関東大震災後の時期の東京帝国大学新聞（左の写真）には、学生が池で泳ぐ様子やスケートを楽しむ記事が紹介されています。すでに育徳園は学生・教職員・近隣住民の憩いの場でした。

関東大震災では池の水が消火に使われた

育徳園には火除け池の機能もあり、関東大震災時は池の水が消火に利用されました。もちろん、他への延焼を防止する効果、避難場所としての役割も担っていました。

構内に水をまくポンプがあった

右図の◆印あたりで異彩を放つレトロな建物は、池の水を吸い上げて構内に潤いを与えんと1928年に設置された撒水用ポンプ施設です。3馬力の電力と趣のある見た目が自慢でしたが、現在は稼働していません。なお、池では水位を保つために汲み上げた地下水を滝から流しており、そのポンプは本郷通り沿いのパーゴラ付近にあります。池の畔にはその関連装置も隠れています。

三四郎の足取りは？

小説『三四郎』の主人公・小川三四郎がヒロイン・里見美禰子と初めて出会ったのはこの池の畔でした。第2章の記述からたどると、ある日の16時過ぎ、弥生門から構内に入った三四郎は、理科大学（理学部の前身）に先輩の野々宮を訪ねた後、育徳園内へ。日暮しの鳴き声を聞きながら三四郎は右図の★印あたりで北に背を向けながらしゃがみます。ふと目を上げてみると、左手の岡の上に夕日を向いて立つ女性が2人。そのうち夕日が眩しくて団扇を翳していたのが美禰子でした。前を通り過ぎる2人を眺めた後、三四郎は「矛盾だ」と独り言。再び野々宮と合流し山上御殿（後の山上会議所、現在の山上会館）の方から園外へ抜けました（足取りには異説もあります）。

弓道場は内田祥三が設計した

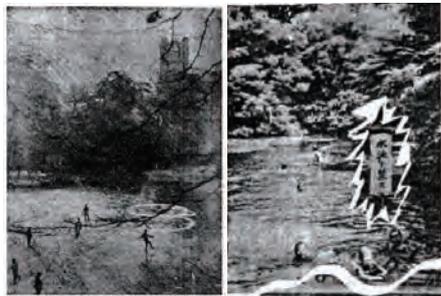
弓術部が使う弓道場の名前は「育徳堂」。内田祥三の設計により1935年に竣工し、後に矢内原忠雄総長が命名しました。

構内最大の銅像がある

構内にある数多の銅像の中で最も大きいのが、第3代と8代の総長を務めた濱尾新先生像。碑にはその功績が漢文で認められています。明治40年、園内には濱尾総長の命で300余本のヒマラヤスギが挿木されましたが、根付いて大きく成長したのは一本だけだったとか。実際に銅像の付近には、大木のヒマラヤスギがそびえています。

昔は総長室もあった

いま山上会館がある場所にかつてあった山上会議所（元は旧富山藩表御殿から医学教場に転用された建物）は、関東大震災で焼失するまで総長室・事務局などとして使用されました。



豆知識

● 一帯は大坂夏の陣の褒美

本郷の赤門から池にかけての一帯が加賀藩前田利常公の所有となったのは、1617年頃のこと。あの大坂夏の陣の褒美として将軍・徳川秀忠より賜ったとされます。

● 「心」に似るから「心字池」

三四郎池の本名は育徳園心字池。「心」字をかたどった池を一般に心字池と呼び、育徳園以外にも日本各地にこの名の池があります(西芳寺や桂離宮のものが有名)。池の形を見て「え、全然『心』に見えないって!」と叫ぶのは、心の中だけにしておきましょう。



江戸御上屋敷絵図(1840~1845年)における育徳園の様子(金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵)

● 昔は排水用の水路があった

かつては池の水を弥生門の辺りから不忍池方面へ水路で流していたことが、出土した排水路遺構でわかっています(1)。この水路は、栄螺山を崩した土による埋め立てで、1890年代前半に消失しました。

● 昔は将軍献上用の氷室もあった

毎年6月1日に将軍に献上するための氷を貯蔵する氷室も園内に築かれていました(2)。明治初期までは園内の北東部に存在したようですが、大学に編入後は消失しました。

● 栄螺山や御亭は兼六園にもあった

園内には螺旋状の坂道が巻貝の殻を思わせる栄螺山があり(3)、頂上からは江戸湾や富士山を眺めることができたとか。実は金沢・兼六園にも同様の栄螺山があります。また、池の南には船型の唐傘御亭(からかさおちん)跡があります(4)。実は兼六園にも同様の御亭があります。



兼六園の栄螺山

● 昔は「富士山」もあった

昔は「富士山」と呼ばれる小山もありました。加賀藩邸になる前に富士権現社(現在の本駒込五丁目富士神社)があったのがその由来。明治以降は椿山と呼ばれていましたが、1964年に着工された経済学部の校舎建設によって完全に消滅しました。

● 船着き場や馬場もあった

池の東には馬場がありましたが、1899年頃に拡張されて運動場になりました。池の北東側には御舟小屋、南東には船着き場があり、船遊びが行なわれていたことがうかがえます。

● 昔は監視が厳しかった

藩邸時代、御殿空間と家臣等が生活する詰人空間は峻別されていました。特に育徳園は屋根つきの板塀で園外と明確に区分けされ、出入りに関する監視が厳しく、夜中にも見回りが行なわれました。

● 池の南には谷があった

1688年の絵図「武州本郷第図」を見ると、池の南側には谷があり、橋がかかっています。1702年の「御上屋敷惣絵図」では池が南に拡張済み。この間に大規模な造成が行なわれたようです。

● 20種以上のトンボを確認

2001年~2011年の期間にギンヤンマやシオカラトンボをはじめとする20種が園内で確認されています。チョウ類は31種、カタツムリは少なくとも25種が確認されています。



● 24代総長の石碑がある

池の畔から山上会館に続く坂をのぼると2つの石碑が並んで現れます。書の主は、24代総長を務めた有馬朗人先生と俳人・山口青邨としても知られた鉱山学の山口吉郎先生。通にお奨め。

● 前田家・現当主の石碑がある

育徳園の入口を入ってすぐの右手には、加賀前田家18代当主である前田利祐さんの書が石碑になって置かれています。その碑を眺めながら初代・前田利家公まで想像の翼を広げてみるも一興。

● 一番多い樹木はミズキ

園内には70種類以上の樹木が確認されています。一番多いのはミズキで、エノキ、ムクノキが続きます(平成15年調査)。近年はシュロやトウネズミモチといった外来種が増えており、生物相の変化が懸念されています。

ひょうたん島通信

大槌発! 第32回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬莱島という小さな島があります。井上ひさしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。ひょうたん島から大槌町の復興、そして地域とともに復旧に向けて歩む沿岸センターの様子をお届けします。



今だけしか見られない風景

菊地眞悟

大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター
事務室 専門職員

今年度より、大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター事務室に着任しました菊地眞悟と申します。宜しくお願いします。岩手県内陸部出身である私は、趣味のドライブで県内各市町村を走っていましたが、震災前までは、県沿岸部市町村のうち、なぜか大槌町のみ、足を踏み入れたことすらありませんでした。震災から半年後、2011年9月の連休中にボランティア活動で釜石市内での作業に参加する機会があり、その足を延ばして大槌の地を初めて踏みしめて以来、4年半経った今、県内で、実家以外に初めて腰を据える土地が、ここ大槌町となったことに不思議な縁を感じます。

震災から半年後の大槌町は、未だ瓦礫が残り、地盤沈下した道路には波が押し寄せ、水飛沫を上げて工事車両が走る状況でした。現在は、瓦礫は見えなくなりましたが、数メートル単位の嵩上げのために高く盛られた土が道路の両脇に壁を作り、土煙を上げて工事車両が走っています。新棟建設のために学内外各方面と共に歩みを進めています。階下に津波の爪痕が残るセンター棟仮復旧部で業務

していると、復興どころか復旧も道半ばの感がしてなりません。

大槌での生活が始まって数週間、テレビの画面に目を覆いたくなるような光景が広がっていました。熊本地方地震です。

津波は発生しませんでした。倒壊した家屋や地割れ、土砂崩れの映像は、東北出身者の私にとっても他人事ではないと思われました。この思いは大槌町の方々も同じで、東日本大震災の際に助けて頂いた分、今こそ恩返しの時と、手作りの募金箱で熊本地方地震被災者への義援金を募る仮設商店街の方々の姿は、東北人の優しさと、その芯にある逞しさが滲み出ているものと感じています。

センター棟の面前には、穏やかな大槌湾の風景が広がっています。震災前は数

県道の両脇に高く盛られた土。他県ナンバーのダンプが走り抜けます。



メートルの高さの防潮堤が目隠しをしていたようですが、津波により防潮堤が倒壊した結果として、美しい海の景色が見られるようになったとのこと。新棟は現在地より海から離れた高台に移転するため、この景色を見られるのは今だけです。当センターでは、来る7月16日土曜日、震災後2回目となる一般公開を開催します。海の日を含めた三連休初日に、三陸観光ついでに、当センターに足を延ばして、今だけの景色をご覧になられては如何ですか。

センターから臨む大槌湾の景色。



調査船「弥生のつばやき」 海洋環境臨海実習 in 大槌



国際沿岸海洋研究センターの調査船「弥生」と申します。皆様のご支援による竣工から早2年が経ちました。私の業務は沿岸海域の調査・観測ですが、事務室のびーちゃんの後を受け、このコーナーも担当しています。

今年も大槌のセンターで大学院生対象の実習が行われました。一部で他の授業スケジュールと重複したため参加者は総勢6名でしたが、熱意溢れる学生さんばかりが集まってくれました。初日は、私の同僚グラブメユが出陣しての地曳網調査です。人数が不足、センターは事務職員まで動員しての総力戦です。春の海風に吹かれて重い網を引く学生さんたちの顔はキラキラと輝いていました。翌日は、採水、採泥など海洋調査の実地体験。いよいよ私の出番です。しかし朝か

らあいにくの曇天で、風と波も穏やかとは言えません。船に慣れぬ学生さんを慮って、船長の操船もいつになく慎重です。しかし帰港する頃には海鳥など観察する余裕を得た学生さんたちとは対照的に、付き添いの教員が青い顔をしていました。最終日は岩手県水産技術センターにお邪魔して、大学とは異なる視点からの調査研究を学んだようです。日頃あまり触れることの無い若々しい笑顔に、私まで元気を貰いました。これからもぜひ大勢の学生さんたちに来て欲しいと願って

います。



地曳網実習風景。サケ、アユの稚魚、カレイ、フグ、ギンボ類など大槌ではお馴染みの魚類が採集されました。

制作：大気海洋研究所広報室（内線：66430）



UTokyo

東大オフィシャルショップ
コミュニケーション
センターだより

特別版・第95回

人気の2シリーズに新商品が登場

東大の研究活動から生まれた商品や東大公式グッズをお届けするコミュニケーションセンター(UTCC)。多彩なラインナップから注目の新商品を紹介します。

気軽にサプリを摂取したい方へ 体力式アミノ酸キャンディ新発売

10年以上にわたり、体感できるサプリメントとして大好評の「アミノ酸サプリメントシリーズ」。顆粒タイプ、リンゴ味ゼリータイプに続き、このたびキャンディタイプを発売しました。必須アミノ酸9種類+アルギニン、グルタミン、プロリンと合計12種類のアミノ酸を配合し、

フレーバーは今やスイーツの定番となりつつある抹茶を採用。少し疲れたなど感じてリラックスしたい時や集中したい時、またゴルフやランニングをはじめとした運動時にも手軽に携帯してアミノ酸を補給できます。顆粒タイプではちょっと飲みづらいと感じていた方も、気軽にアミノ酸ライフを始められます。1袋(15個入り) 57g) 500円(税込)



香りがふわっと広がる泡 蓮香シリーズにハンド&ボディソープが新登場



本学出身の植物学者、故大賀一郎博士が発見した大賀蓮をテーマとした「蓮香シリーズ」は、水辺に凜と咲く大賀蓮のさわやかでみずみずしい香りをベースにしており、男女ともにご使用いただけます。このたび新たに登場したハンド&ボディソープは、肌のうるおいは奪わずに不要な汚れを落とす優れたものであり、とてもシックで品のあるインターメディアテクオリジナルデザイン。ご自宅用だけでなく、大切な方への贈り物としても

ご利用ください。370ml(1ブッシュ1ml) クリアケース付 2,160円(税込)

◎デザイン担当教員からのメッセージ

コミュニケーションセンターから発信されたこれまでのイメージや商品に対して、インターメディアテクはひと味違った世界観があります。その重厚かつ和みのある雰囲気、大学、研究、実験といったキーワードとともにイメージしました。(関岡裕之インターメディアテク寄付研究部門特任准教授)

→ <http://shop.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp/>
10:00~18:00(水・日・祝定休)03-5841-1039

あちこちそちこち
東京大学 第10回

本郷・駒場・柏以外の本学を現場の教職員が紹介

生産技術研究所附属
千葉実験所の巻

所長
須田義大

70年以上続く大規模実験拠点



桜満開の千葉実験所全景。

千葉県内に東大の施設は数多くありますがその一つ、生産技術研究所(以下「生研」)附属千葉実験所は、JR西千葉駅から徒歩5分の好立地です。

古くは昭和17年、旧第二工学部を起源とし、昭和24年に生研へ改組となりました。その後、昭和37年に、生研が六本木へ移転後も、大規模実験の拠点として、重要な役割を担って参りました。

その実験施設は多種多様です。構内中央に見えるドーム型建物は、世界に唯一、「張力型空間構造モデルドームホワイトライノ」です。上空の飛行機からもよく分かる目印です。鉄道の試験線があれば、大型水槽や振動台、実物スケールの模擬トンネルや橋梁も姿を見せます。構内道路の交差点には、何と試験用信号機もあります。研究実験棟を覗いてみれば、バイオマスやプラスチック成型をはじめ、様々な生研プロジェクトのオンパレードです。

9.2haの緑深きこの土地に、こんな実験所があろうとは、夢にも知らない皆様方、是非、11月11日(金)の一般公開へご参加ください! 柏キャンパス機能移転前最後のこの実験所の姿をご覧ください。



1. 海洋工学水槽。一般公開での1コマ。2. 振動実験中の地震応答実験棟。3. 張力型空間構造モデルドーム・ホワイトライノ。4. 現地スタッフです。

www.iis.u-tokyo.ac.jp/chiba/



留学生さん いらっしやい!

海を越えて東大に来た学生に聞きました。

第30回



ミャンマー

カイン・レイ・ウィン さん

Khine Lae Win

医学系研究科
社会医学専攻 博士1年

国境なき医師団やミャンマー保健省で働いた後、東大で修士号を取得。母国の健康問題改善を目指しています。休日は公園や自然の中でなごむのが好き。

Q. 東大に来たのはどうして?



働いていた時から海外で修士号を取得したいとずっと思っていました。アジア開発銀行から奨学金をもらえることになり、東大かオーストラリアの大学か、2つ選択肢が示されました。英語圏のオーストラリアにも惹かれましたが、研究に重点を置く東大を選びました。

Q. いま何を研究しているの?

薬物による健康問題（HIVやうつ症状など）とそれを改善するミャンマー国内での取組の効果を博士課程で研究しています。現地で聞き取り調査を行うなど、かなり自由に研究ができます。東大は研究体制が整っていて、国際的ネットワークも強いので、ミャンマーの現状を世界に発信するには理想的な環境です。



Q. 東大・日本で困ったことは?



最初は日本語を使うのが難しかったです。実はビルマ語と日本語は文法が似てるんですけどね（笑）。漢字は特に難しいと感じます。

Q. 東大で好きなところは?

東大は図書館の文献が豊富で、読みたい資料に簡単にアクセスできるのでいいですね。いつでもインターネットが使える点も好きです。



Q. ミャンマーのいいところを教えてください!



出身地のヤンゴンでは、シュエダゴン・パゴダが有名です。観光客だけでなく地元の人でも毎週参拝しています。伝承では2500年前からあるそうです。料理ではモヒンガーという麺料理がお勧めです。五月祭ではミャンマー料理の屋台を出しているんですよ。



協力：国際センター本郷オフィス 制作：本部広報課

Crossroad

産業界と大学がクロスする場所から、産学連携に関する“最旬”の話題や情報をお届けします。

産学協創推進本部

第127回

産学共同研究—大学と民間企業等の連携「産学協創」を推進

産学連携における「共同研究」とは、民間企業等と本学が、共同研究契約に合意のもと、双方の研究者・研究資金・設備等を出し合い、対等の立場で共通の課題に向けた研究に取り組み、優れた研究成果の創出を目指す制度です。H26年度の日本の大学等における民間企業との共同研究費受入額は416億円(研究実施件数19,070件)、東京大学は全国2位の69億円(前年比23%増、1624件)と年々増加傾向にあります。しかしながら、日本の過去10年の1件当たりの研究費受入額は230万円前後と伸び悩み、本学は420万円と平均を上回るものの、依然、少額に留まっているのが現状です。海外では1件当たり平均1,000万円以上が一般的で、今後は、欧米の一流大学で行われるような大規模化が課題で、産業界も共同研究の大型化・本格化に努めることが期待されています。

産学協創推進本部では、五神総長のビジョン2020のもと、大学と民間企業の多様で本格的な大型組織間連携『産学協創』を推進しています。アカデミア最先端の学術研究成果を社会へ効率よく還元することを強化し、人類社会が直面する様々な課題解決に向け、次世代にイノベーションを起こすべく企業と一体となって連携協力することを目指しています。本学から企業の皆さまにご提案させて頂いている『産学協創』を志向した共同研究による連携としては、1)東大と共同による研究組織の創設、2)東大の複数部局と文理融合型での戦略的な連携、3)海外機関や国際機関との協働プロジェクトでの連携など、多様な形態の実例が創出されてきています。年間の共同研究・受託研究件数が初めて3,000件(H26年度)を超える中、産学協創推進本部は、迅速な契約締結のための支援の他、企業ニーズと大学シーズのマッチング等、様々な側面からサポート致しております。お問合せ・ご相談は随時、受付けておりますので、是非お気軽にご相談ください。



産学協創推進本部 www.ducr.u-tokyo.ac.jp/

インタープリターズ・第107回 バイブル

総合文化研究科 准教授 松田恭幸
教養学部附属教養教育高度化機構
科学技術インタープリター養成部門

「パナマ文書」と「サル王国」

「パナマ文書」が世間を騒がせている。多国籍企業や富裕層と呼ばれる人々によるタックスヘイブンをを用いた合法的な課税逃れの実態が改めて明らかになったからだ。課税を免れている金融資産の総額は全世界で4000兆円にのぼるとも言われており、タックスヘイブンの利用に関する国際的な規制を求める声が強まっている。

だが、企業とは本来、営利を目的とする団体である。つまり、払う税金の額を（合法的とされる範囲で）最小化することは、企業の行動原理に従った行動だと言える。また、タックスヘイブンほど極端ではなくても、補助金や税負担軽減等の形をとった企業の誘致競争は世界中で行われている。国境を超えて活動する企業の活動を規制するのは容易ではなく、また、過度の規制は自由競争を阻害し、世界の経済発展にマイナスの影響を及ぼしかねないのも事実であろう。ただ、そう説明されても「割り切れなさ」は残る。この「割り切れなさ」はグローバルな資本の論理とそれに基づく行動が、一般の市民の論理や感覚とは必ずしも一致しないという点に発しているのだと思う。

同じような「割り切れなさ」を感じさせるニュースが最近、Nature 誌に載っていた。2016年4月21日号の"Monkey Kingdom" というタイトルの記事によると、中国では自閉症や統合失調症、アルツハイマー病などの研究を遺伝子組み換えサルを用いて行うための環境が整えられつつあり、世界中の研究者が自国では行うことができない研究を行うために中国の研究所との共同研究をすすめているという。こうした動きについて記事は、欧米では霊長類を用いた研究が生命倫理的な問題から縮小されていく傾向があることに触れつつ、中国は世界中の研究者たちにユニークな貢献ができる立場にあると述べ、基本的に歓迎している。

科学の研究に国境はなく、また、過度の規制が科学の発展を阻害してしまうことも経済活動と同様であろう。だが研究活動が市民の論理や感覚と離れたところで行われ続けると、大きなバックラッシュが起きてしまうのも同様のようと思われる。パナマ文書の公開とそれに伴う規制強化への動きを他山の石としつつ、研究に携わる科学者集団自らが、社会の多様なステークホルダーとの積極的な対話を通して自らの研究活動を律する枠組みを作り上げていくことが求められている。

科学技術インタープリター養成プログラム
science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp

蔵出し! The University of Tokyo Archives 文書館 ぶんしよかん



第2回

収蔵する貴重な学内資料から
140年に及ぶ東大の歴史の一部をご紹介します

●今回の蔵出し資料

「文部省往復」



「米人モース氏帰国二付給料前渡ノ件」1877年10月9日 (Mo022,133丁)
大森貝塚の発見で有名なエドワード・モースがアメリカに一次帰国した際に、給料を前渡しすることが書かれた文書です。→「文部省往復」デジタル・コレクション (<http://www.u-tokyo.ac.jp/history/S0001.html>)

デジタル化された公文書綴

近代日本の高等教育や教育政策の歴史については、いまでも明らかになっていないことが多くあります。戦前期の資料が、関東大震災で消失するなどして、文部省（現文部科学省）内では失われてしまったからです。

東京大学の前身である大学南校・大学東校と文部省の間では、同省が1871年に設置されるとともに文書が交わされはじめました。それらは、公文書綴「文部省往復」として東京大学文書館に保存されており、2013年には重要文化財として指定を受けています。

今春から、デジタル化によって、このコレクションにアクセスすることが、今までより容易になりました。昨年度完了した科研費プロジェクト「文部省往復を基幹とした近代日本大学史データベース」(代表：吉見俊哉)では、明治期分137簿冊のデジタル・アーカイブ化を行ない、資料のデジタル画像と目録を作成しました。歴史の研究者だけでなく、学内外の誰でもがインターネットを通じてこの貴重なコレクションを利用できるようになったのです。このデジタル・アーカイブには、今後さまざまな機能が付け加えられ、成長しつづけることになっています。

『文部省往復』には、東京大学の校舎に関するもの、いわゆる「お雇い外国人」の待遇を含む人事に関するもの（図版はE・モースの待遇に関する文書です）、万国博覧会に関するもの、学生生活に関するものなど、じつに幅広いトピックの文書が含まれています。さらに文書館の収蔵庫には、関連するさまざまな歴史資料の原本があります。『文部省往復』のデジタル・コレクションから出発して、みなさんも歴史資料の海に漕ぎ出しませんか。わたしたちは、歴史探求の水先案内のために、みなさんをいつでもお待ちしております。(文書館特任助教・宮本隆史)

東京大学文書館
www.u-tokyo.ac.jp/history/index_j.html

トピックス

全学ホームページの「トピックス」(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/topics/>)に掲載した情報の一覧と、その中からいくつかをCLOSE UPとしてご紹介します。

掲載日	担当部署	タイトル	実施日
5月13日	広報室	東京大学とハンガリー科学アカデミー・ウィグナー物理学研究センターとの知的財産協力協定が締結されました	5月9日
5月13日	国際本部	IARU 学長会議が開催	4月25日
5月16日	農学生命科学研究科・農学部	農学生命科学研究科の中西友子特任教授が Hevesy 賞を受賞	4月10日
5月17日	本部学生支援課	新生入向けスポーツ大会「第3回 駒場運動会」を開催しました	4月19日
5月19日	本部博物館事業課	総合研究博物館本郷本館にて新常設展示「知の回廊」内覧会が開催される	5月13日
5月23日	政策ビジョン研究センター	厚生労働省「予防・健康づくりインセンティブ推進事業」データヘルス計画推進シンポジウムを開催しました	3月22日
5月27日	教育学研究科・教育学部	大学院教育学研究科・教育学部留学生懇談会の開催	5月18日
5月30日	史料編纂所	ロシア国立歴史文書館長らを招聘して「日露関係史料をめぐる国際研究集会」を開催	5月24日
6月2日	本部広報課	第4回国際広報勉強会が WEPOC と 30m 望遠鏡をテーマに開催されました	5月30日
6月6日	産学協創推進本部	第26回科学技術交流フォーラム	5月13日
6月6日	柏地区共通事務センター	柏キャンパスに「産総研・東大 先端オランダ計測技術オープンラボラトリー」(OPERANDO-OIL)を設立	6月1日
6月9日	農学生命科学研究科・農学部	仔馬の名前、募集します!	6月9日
6月10日	国際本部	東京大学フォトコンテストの結果発表	6月6日
6月13日	総合文化研究科・教養学部	「梶田隆章教授 ノーベル賞受賞記念講演会・交流会」開催しました	6月8日
6月13日	総合文化研究科・教養学部	「東京大学スポーツ先端科学研究拠点開設記念シンポジウム」開催しました	6月4日

お知らせ

人事異動情報など全学ホームページ「お知らせ」(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/>)・東大ポータル等でご案内しているお知らせを一部掲載します。

掲載日	担当部署	タイトル	URL
	本部学務課	学生数の詳細について	http://www.u-tokyo.ac.jp/stu04/e08_02_01_j.html
5月20日	大学総合教育研究センター	梶田隆章教授ノーベル賞受賞記念講演会を東大TVで公開	http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z0308_00006.html
5月25日	本部広報課	梶田隆章特別栄誉教授の高校生向けニュートリノ解説動画公開	http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z1304_00021.html
6月3日	学生相談ネットワーク本部	柏キャンパスにおけるピアサポート活動の本格開始のお知らせ	http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z0519_00002.html

CLOSE UP

第11回 IARU学長会議に総長が出席

(国際本部)



参加大学の学長陣。



藤原教授と東大卒業生との懇談。

4月25日(月)、26日(火)の2日間にわたり、イギリス、オックスフォード大学において、第11回IARU学長会議が開催され、五神真総長、藤原帰一教授(法学政治学研究科)が出席しました。本会議では、各加盟大学を取り巻く国内外の情勢や各大学内の施策等について情報交換が行われたほか、IARUのプロジェクトとして実施している既存事業の進捗確認、新規提案の審議等が行われました。

また、学長会議前日の24日(日)には、加盟大学の卒業生に向け、第2回目のIARU World Alumni Forumが開催され、学長、卒業生によるパネルディスカッションや基調講演、ネットワーキングレセプションなどが行われました。

IARU (International Alliance of Research Universities) とは、2006年に設立された、東京大学、北京大学、イェール大学、カリフォルニア大学バークレー校、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、コペンハーゲン大学、オーストラリア国立大学、シンガポール国立大学、ケープタウン大学の11研究型大学が参画する国際大学連合です。学長会議・Senior Officers会議のほか、サマースクールやインターンシップなどの学生交流、サステイナブル・キャンパスや男女共同参画、エイジング分野における協力、図書館や同窓会組織間の連携等を推進しています。
<http://www.iaruni.org>



CLOSE UP

新常設展示「知の回廊」内覧会を開催

(本部博物館事業課)



内覧会。



記者発表。

総合研究博物館本郷本館にて、新常設展示「知の回廊」の内覧会が、5月13日(金)に開催されました。前身である総合研究資料館が発足したのが1966年、総合研究博物館に改組したのが1996年と、それぞれ節目の年でもあり、設立・開館から20年を迎え、このたび新常設展示「知の回廊」展を開催する運びとなりました。

「知の回廊」は展示型収蔵という概念に基づき、学術研究の現場を展示空間に直接持ち込み、研究者が、大学が、アカデミズムが真理を探究していく姿を目の前に展開するものです。宇宙、地球、生命、人類、文明を網羅し、発掘や採集などを通じて、大量の標本資料を蓄積する様子をご覧になれます。また、精緻な記載、高精度

の形状解析、巨大装置による年代測定など、標本資料への飽くなき分析の実際を体感できる展示となっています。

記者発表では西野嘉章総合研究博物館長、諏訪元総合研究博物館教授が本展示について概要説明と記者との質疑に応じ、続く関係者向けの内覧会とレセプションには、保立和夫理事・副学長をはじめ、同時開催される「国際共同展示『Qafqaz Neoliti (カフカズ ネオリティ)——東京大学アゼルバイジャン新石器時代遺跡調査2008-2015』」で共催するアゼルバイジャン国立科学アカデミー考古学民族学研究所のファルハドキリエフ氏ら学内外から多数出席され、盛会のうち終了しました。



CLOSE UP

新入生のための駒場運動会を開催

(本部学生支援課)



勝利をめざして一致団結!

4月19日(火)~22日(金)、25日(月)の5日間にわたり、駒場1キャンパスにてスポーツ大会「駒場運動会」が開催されました。当スポーツ大会は(一財)東京大学運動会主催のもと、新入生がスポーツを通してクラス内外での交流を深めることを目的として、一昨年度より開催されています。バレーボール・綱引き・リレー・フットサルの4競技を、1日1競技ずつ実施しました。新種目であった玉入れ競技は雨天により

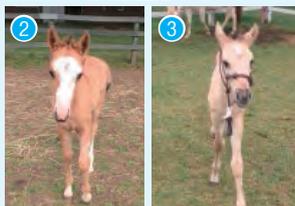
中止となりましたが、開催種目ではクラスの友人の応援に駆けつける学生も多く見られ、参加者・観客あわせてのべ約700名の来場がありました。綱引き・フットサルでは、参加者・観客あわせて約400名が来場し、割れんばかりの歓声が響きました。表彰式では、各競技にて優秀な成績をおさめた参加者に、賞状と副賞が授与されました。クラスの友人同士で集まって記念撮影を行う様子が印象的でした。



CLOSE UP

仔馬の名付け親になりませんか!

(農学生命科学研究科・農学部)



東大牧場でクリオージョの仔馬が3頭生まれました。素敵な名前を募集しています。
①4/5 生まれ<父>：パトロンシート、母；フェリス>素直なおとなしい男の子。恥ずかしがり屋ながら人は大好きです。左右均等大流星鼻梁美白がイケメンに見えるかも?
②4/30 生まれ<父>：パトロンシート、母；ロフィータ>久しぶりの鹿毛の男の子。顔の大流星鼻梁環鼻大白鼻大白がきりとした印象を与えます。どしりとした体格です。
③5/3 生まれ<父>：パトロンシート、母；トロンテス>小ぶりな男の子。額の星がワンポイント。やんちゃさと後ろ足の力は三頭の中でピカ

イチ! 指を軽くかませるとリラックスします。
 <<応募要領>>
 メールにて、件名を「仔馬の名前募集」として amaimai@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp まで送ってください(締切は7月30日)。本文に、仔馬の名前と仔馬の生まれた日とその名前の意味、応募者のお名前を記載のこと。※アルゼンチンの馬なので、仔馬の名前はスペイン語か現地の言葉をお願いします。※3頭全部でも1頭だけでも構いませんが、どの日に生まれた仔馬の名前か明記してください。名前が採用された方には、メールにて連絡後、記念品として血統登録書のコピーと馬の蹄鉄を贈ります。



CLOSE UP

先端オペランド計測技術の研究拠点が柏に誕生 (柏地区共通事務センター)



調印式後の記念撮影。

柏キャンパスに、産業技術総合研究所(以下、産総研)と東京大学が6月1日に共同で「産総研・東大 先端オペランド計測技術オープンイノベーションラボラトリー」(OPERANDO-OIL)を設立しました。「東京大学ビジョン2020」に基づく、「つくば-柏一本郷イノベーションコリドー(TKHIC)構想」の活動の拠点として、新たな産総研の拠点を柏キャンパスに設置し、相

互のシーズ技術を合わせ、素材やデバイス開発分野での新産業創出を目指した研究開発を連携して行い、技術の実用化と社会実装を推進させていきます。さらに、産学官ネットワークの構築による「橋渡し」につながる目的基礎研究の強化や、先端オペランド計測技術を活用した生体機能材料、新素材、革新デバイスの産業化・実用化のための研究開発を行います。





生き物の名前を知る

ウミガメ剥製2体と立派な貝殻をいくつかもらい受けた。妻の実家からである。義父は小笠原の返還（1968年6月）後初代の母島小学校校長を務めており、その赴任期間に入手したものと聞いた。ウミガメは頭頂の模様でアオウミガメとタイマイと同定することができた。しばらくは飾っておいたが、やはり邪魔なので、人に譲ることにした。しかし調べてみるとウミガメ類は絶滅危惧種として取引が規制されており環境省に問い合わせると学術目的ならば譲渡ができることがわかり、所内でウミガメの行動を研究している先生に譲った。貝もアワビを研究している先生に「小笠原の貝」として譲ったのだが、彼が言うには半分くらいは小笠原の貝ではないと言う。小笠原の固有種カサガイなども含まれていたが、立派なアワビは北米西海岸産アカネアワビ、大きな巻貝はアラフラ海に生息する世界最大の巻貝アラフラオオニシといった具合に。何故、絶海の孤島であった返還直後の小笠原に世界の貝があったのか。

義父に聞いてみると、これらは漁師から買ったたりもらい受けたたりしたもので、当時の漁師はグアムなどに頻繁に出入りしていたらしい。グアムまで約1,500 km、2昼夜走れば着

ける距離ではある。当時の小笠原は、私の想像よりはるかに世界の物資が流通していたのかもしれない。こんな想像も「小笠原の貝」として片づけていたうちは不可能で、生き物の名前がわかって、初めていろいろな物語を語りかけてくるのであって、生き物に名前を付ける、名前を調べる重要性和楽しさを再認識する機会となった。またアオウミガメも、その大きさから考えて小笠原産とは考えられないようだ。

その後、カメは一般公開などで背中にカメラやセンサーなどを装着され、バイオロギング研究（生物にセンサーを付け行動や環境計測を行う研究）の広告塔として大活躍をしたのだが、2011年3月11日の津波で、岩手県大槌町にある国際沿岸研究センターは3階まで浸水し、カメを含む研究機材、資料はほとんど流失した。その話を聞いた妻と娘は「カメは海に帰った」と口をそろえた。ポセイドンのトリアイナによって、半世紀の時を経て。

津田 敦(大気海洋研究所)